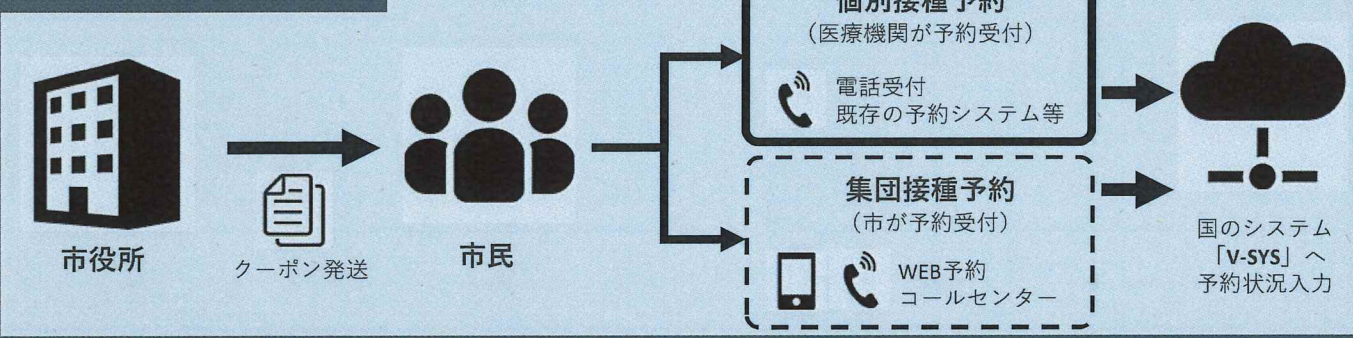


1 実施について

実施主体	佐久市
接種対象	全ての佐久市民（予定）
実施方式	個別接種を中心とした集団接種との併用
接種委託先	佐久医師会・市内各医療機関
実施費用	国庫支出金（10/10）
実施期間	未定（令和3年4月～9月※） ※現時点で国が示すスケジュール

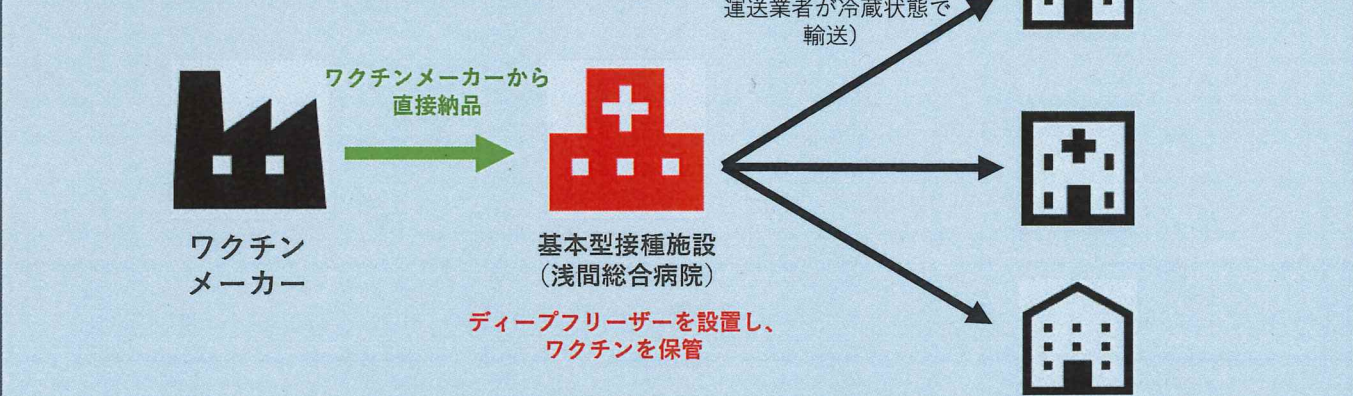
2 接種体制案

接種までの流れ



ワクチンの供給計画

最初の採用が想定されるファイザー社製ワクチンは、
-75℃での保管を要すること・最小流通単位が1,000回分
以上とワクチンの管理・運用に課題があることから、
市内でのワクチンの小分け・流通体制を市が構築する。



現場人員・会場候補地（集団接種）

■ 集団接種を行う際のチーム編成案 (1チームあたり)

職種	人数	役割等
医師	1名	予診・接種
看護師	2名	予診および接種介助・液の充填・接種後の健康観察
その他	7名	受付・誘導・予診票チェック・済証発行 等

- 集団接種 会場候補地
- ◎常設会場として市内民間施設の借上げを行う予定（2か所程度）
 - また、常設会場への公費による送迎（シャトルバス等）を計画中
 - ◎予約やワクチンの配分状況により、公共施設を利用した特設会場の設置も計画中

3 接種体制の規模

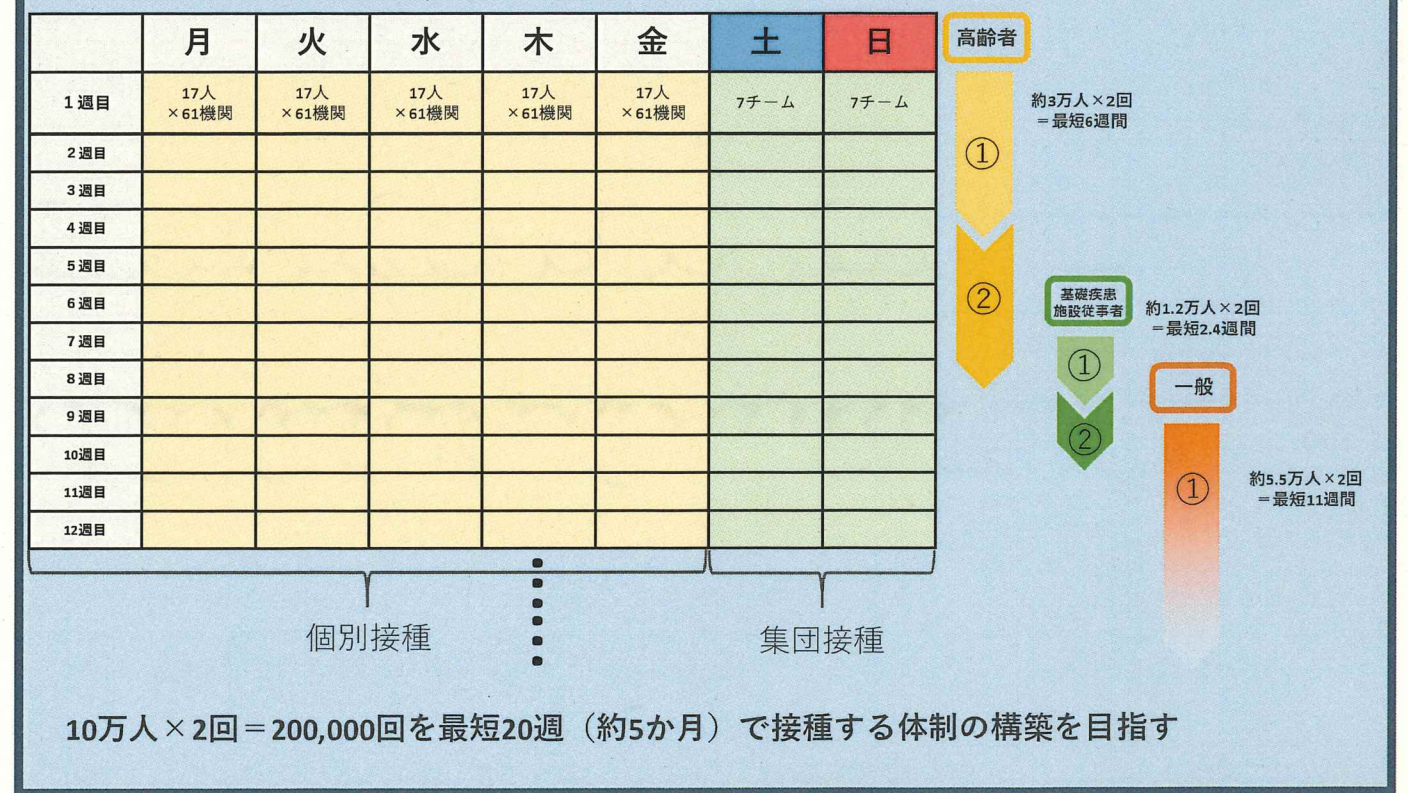
- 国は、高齢者人口が3万人の場合、約6,700回/週の接種体制の構築を求めている
- 佐久市では、個別・集団それぞれ5,000回/週ずつ（10,000回/週）接種体制の構築を目指すことで佐久医師会と調整を進めている

接種体制の例

個別接種	集団接種
仮に、61医療機関（インフルエンザワクチン接種医療機関数）で行った場合の1診療日（週5日）あたり接種人数	仮に、週2日開場し、1チームが接種できるペースを400回/日としたときに同時稼働する必要があるレーン数
5,000回/週 = 17回/診療日 × 61機関	5,000回/週 = 2,500回/日 = 400人 × 7レーン/日

接種モデルケース

※集団接種を土日開催と仮定した場合



4 市民から見た利用イメージ・情報発信等

